

シンフォニー

地域と医療が奏でる♪

NO.
55
September

年3回発行(1月・5月・9月)



感染対策チーム(ICT)



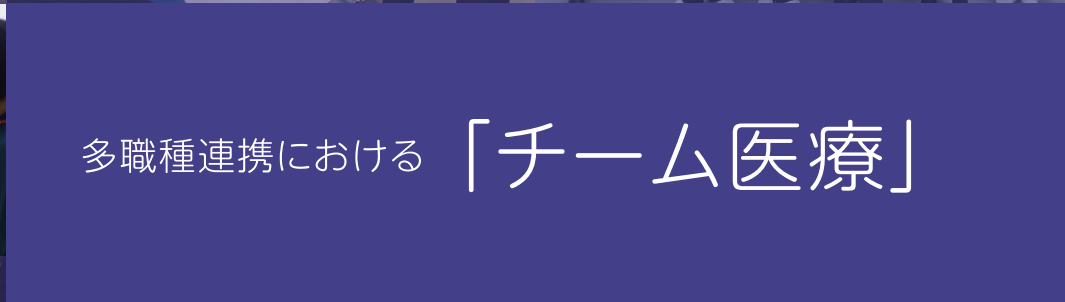
呼吸ケアチーム(RST)



心不全チーム



栄養サポートチーム(NST)



多職種連携における「チーム医療」



緩和ケアチーム



口腔ケアチーム



褥瘡対策チーム



抗菌薬適正使用支援チーム(AST)



骨粗鬆症リゾナーサービス(OLS)



認知症ケアサポートチーム(DST)



臨床倫理コンサルテーションチーム



リウマチ膠原病ケアサポートチーム



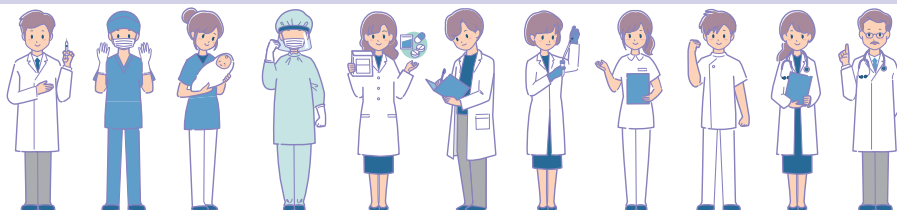
糖尿病療養チーム

特集：「チーム医療」

多職種連携を強化し患者一人ひとりに最適な医療を

MEDICAL TEAM MEDICAL TEAM MEDICAL TEAM MEDICAL TEAM MEDICAL TEAM MEDICAL TEAM MEDICAL TEAM

多職種チームとは？



MEDICAL TEAM MEDICAL TEAM MEDICAL TEAM MEDICAL TEAM MEDICAL TEAM MEDICAL TEAM MEDICAL TEAM

医療機関には、医師をはじめとするさまざまな職種の医療従事者が連携と協力のもと、チームでの医療を行っています。

医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカーなどの職種が、それぞれの高い専門性を前提に、役割分担しつつお互いに連携し、補完しあいながら患者さんの状態に適した医療を提供できるよう努めています。

入院される患者さんは身体的な苦痛、心理的・社会的な事情、精神的な不安などを多く抱えていることがあります。そのため、多種多様な職種が関わり情報を共有し、連携を図り、協力することで多角的に患者さんを支えることができます。チーム医療は効率よく良質な医療の提供をすることが出来るため、多職種によるチーム活動は医療現場にとって必要不可欠な存在となります。

今回は当院で活躍するチームをご紹介します。ぜひご覧ください。



Pickup 1

認知症ケアサポートチーム(DST)

認知症ケアサポートチームとは

認知症ケアサポートチーム=Dementia care Support Team (DST) は、2023年4月に発足しました。

急性期病院には、身体疾患を合併した認知症の人が入院してきます。これらの人は、認知症であるがゆえに、身体の変化や入院という慣れない環境で生じる困ったことを自ら伝えることが出来ず、不安や混乱が生じることがあります。認知症ケアサポートチームでは、認知症の人の環境調整やコミュニケーション方法について病棟看護師と共に検討し、安心できる環境(ケア環境を含む)で適切な治療を受けられるようにケアのサポートを行うことを目的として活動するチームです。



チームメンバー

医師、専任看護師、病棟看護師、入退院支援看護師、ソーシャルワーカー、薬剤師、リハビリ療法士、管理栄養士、医事課スタッフ

主な活動内容

多職種が携わり、認知症ケアに関わる課題や事例検討などカンファレンスを実施します。

入院している認知症患者さんに対して、よりよい医療や療養生活が送れるようにサポートします。

認知症ケアに関する院内研修を企画実施しています。

「認知症ケアに関する手順書」を作成し、院内への普及を促進しています。



Pickup 2

臨床倫理コンサルテーションチーム

気軽に相談できる臨床倫理コンサルテーションチームを目指して

医療従事者にとって判断に迷うことがしばしば起こっております。そこで、職員が直面した臨床上の課題について相談を受け、早期解決に向けてサポートする臨床倫理コンサルテーションチームを2022年10月より立ち上げ、活動を開始しております。チームメンバーには、医師・看護師・ソーシャルワーカー・理学療法士・医療安全管理者・事務など9名で構成され、チームの立ち上げ前より定期的に勉強会やミーティングを繰り返し、チームメンバーの知識の向上にも力をいれております。

これまでの依頼は主に、患者さんの意思決定に関わること、治療やケア方針に関わること、延命処置に関する事など、9件の依頼を受け介入しております。どの事例においても医療従事者ももやもやした気持ちや倫理的ジレンマを抱えておりました。臨床倫理コンサルテーションチームが介入することで、医療者のモヤモヤが少しでも軽減し患者さんやご家族と真摯に向き合うことができるようになることが私たち倫理コンサルテーションチームの役割と考えております。

まだまだ知識も浅く未熟なチームですが、今度も精進してまいります。



Pickup 3

骨粗鬆症リエゾンサービス(OLS)

当院では、骨粗鬆症(こつそしょうしょう)の患者さんの治療・管理を行う

『骨粗鬆症リエゾンサービス』を設置しております

骨粗鬆症とは骨の密度・強度が低下し、骨折の危険性が高まった状態を指し、転倒などを契機に生じる骨折の予防を目的として骨粗鬆症治療を行っております。当院の骨粗鬆症リエゾンサービスは、大腿骨頸部骨折(だいたいこつけいぶこつせつ)・腰椎圧迫骨折(ようついあっぱくこつせつ)をはじめとして高齢者に多い脆弱性骨折(ぜいじゃくせいこつせつ)の予防に力を入れており、主に入院患者さんを対象として、患者さんの骨粗鬆症状態を把握し、二次骨折予防(骨折の再発予防)に取り組んでいます。

当チームは、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、ソーシャルワーカー、地域連携担当者、医療クラークなど、多職種が協力して活動しています。毎週の高齢者カンファレンスや、月に1回のリエゾンミーティングを行い、患者さんの状態を共有し、それぞれの専門性を生かした治療・ケアを提供しています。

当院の骨粗鬆症リエゾンサービスでは、専門医やスタッフが力を合わせ、患者さんの早期回復に取り組んでいます。入院中には、骨密度検査や運動療法、栄養指導、薬剤治療などを行い、退院後も地域の診療所や高齢者施設と連携して、患者さんの健康管理をサポートしております。

骨の健康に不安を抱えた患者さんは、どうぞお気軽にご相談ください。





副院長・外科科長 金 達浩



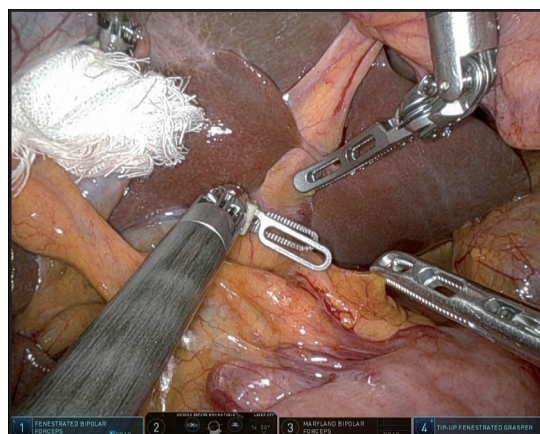
大腸がん・膵臓がん・肝臓がん の最先端ロボット手術

当院の外科では、最先端の低侵襲手術である「ロボット支援下内視鏡手術」を消化器がん手術（大腸がん、膵臓がん、肝臓がん）に対して行っています。これまで当科では、従来の開腹手術と比べて傷が小さく身体に優しい低侵襲の腹腔鏡手術を埼玉県内で最も早く導入し、近年では最も手術が難しい肝臓がん、膵臓がんに対しても腹腔鏡手術を積極的に行ってきましたが、2022年度からさらに高度な手術を可能とするロボット手術を開始しました。

最大14倍に拡大可能、3Dハイビジョン画像搭載、第4世代ロボット支援手術システム「ダビンチX」

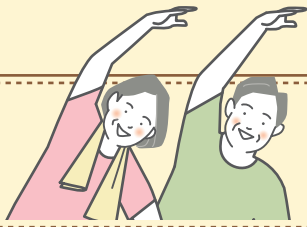
当院で2021年4月から導入した第4世代のロボット支援手術システムである「ダビンチX」には、遠近感があり、最大14倍に拡大可能な3Dハイビジョン画像で臓器を見ながら手術を行うことができます。

4本のアームを使用することができ、それぞれが執刀する医師の手の動きを忠実に再現するだけでなく、人間の関節を上回る可動域を備え、しかも手ぶれを補正する機能も持つという特徴があり、傷が小さく身体に優しい利点そのままに、人間の手による開腹手術と同等以上の極めて精密な手術を行うことができます。最初に開始した泌尿器科と外科を合わせてすでに200例をこえる手術を安全に行っています。



内視鏡外科技術認定医4名、肝胆膵外科高度技能専門医2名在籍

ロボットを操作するのは執刀医であり、高い技術を必要とすることは言うまでもありませんが、当院の外科には、ビデオによる厳格な手術手技の審査を経て認定される「内視鏡外科技術認定医」が4名、「肝胆膵外科高度技能専門医」が2名在籍しています。これまで多数の腹腔鏡手術、高難度がん手術を行ってきた経験を活かし、麻酔科医・手術室看護師・臨床工学技士などのスタッフがチーム一丸となって、皆さまにより安全で負担のない手術を受けていただけるよう努めてまいります。御興味のある方はぜひお気軽にお問い合わせ下さい。



健康たいそう講座

当院リハビリテーション科スタッフがおすすめの体操をご紹介します!



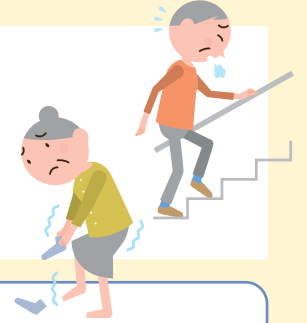
骨や筋肉、関節のほか、神経など体を動かす機能が衰え、移動能力の低下をきたした状態を

「ロコモティブシンドローム」=ロコモといいます。

便利な移動手段の多い現代社会では、日常生活に支障はないと思っていても、ロコモになっていたり、すでに進行している場合が多くあることが分かっています。ロコモが進行すると、将来介護が必要になるリスクが高くなります。早い段階で運動機能の低下に気づき、適切なトレーニングを行うことで健康寿命を延ばしていくことが大切です。

こんな状態は要注意! チェックしよう7つのロコモチェック

- 片脚立ちで靴下が履けない
- 家の中でつまづいたり、滑ったりする
- 階段を上るのに手すりが必要である
- 家のやや重い仕事(掃除機がけ等)が困難である
- 2kg程度(1Lの牛乳2個程度)の買い物をして持ち帰るのが困難である
- 15分くらい続けて歩くことができない
- 横断歩道を青信号で渡りきれない



自宅でできる運動療法

1 片脚立ち



①机やいすに指や手をかけて片脚を持ち上げる。

POINT!

・支えが必要な人は十分注意してください、机に手や指をつけて行います。



左右とも1分間で1セット 1日3セット

2 スクワット



①足を肩幅に広げて立ちます。
②お尻を後ろに引くように、ゆっくりと膝を曲げ、元に戻ります。

POINT!

・息を止めないようにする。
・膝の曲がりは90度を超えない。
・支えが必要な人は十分注意して、机や手をつけて行う。



5~6回で1セット 1日3セット

3 ヒールレイズ(踵上げ)



①両脚で立った状態から両脚の踵を上げる。
②ゆっくり踵降ろします。

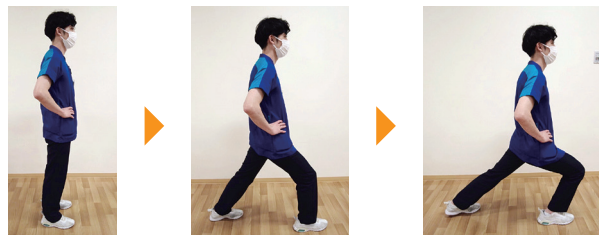
POINT!

・バランスを崩しそうな場合は、壁や机に手をつけて行う。
・おへそが突き出ないようにする。



5~6回で1セット 1日3セット

4 フロントランジ(難易度たかめ)



①腰に両手をつけて両脚で立つ。
②脚をゆっくり大きく前に踏み出す。
③太ももが水平近づくようにゆっくり腰を落とす。

POINT!

・胸を張って良い姿勢を保つ。
・大きく踏み出しすぎて、バランスを崩さないように気をつける。



5~6回で1セット 1日3セット

続けることが肝心です。
「ロコトレ」でいつまでも元気な足腰を。

頑張りすぎず
無理せず、自分のペースで
行いましょう!





特定看護師 佐野 静香

私は主に心不全や心筋梗塞などの循環器疾患を有する患者さんが入院する病棟で勤務している特定看護師です。病棟では、動脈から採血を行う直接動脈穿刺（ちよくせつどうみゃくせんし）や、非侵襲的陽圧換気（ひしんしゅうてきょうあつかんき）という人工呼吸器の設定の変更、点滴や栄養管理の目的で挿入される中心静脈カテーテルの抜去（ばっきょ）などの特定行為実践を行っています。

通常、医師は外来業務や治療・処置など多くの業務を担っており、病棟を不在にすることもありますが、医師にしかできない医療行為が必要となる場面が多々あります。医師が不在でも医療行為が可能となれば、患者さんにとってタイムリーに医療を提供でき、生活の質やQOLの向上を図れるのではないかと考え、看護師特定行為研修に参加しました。

この研修制度について、患者さんはもちろんのこと、医師や看護師などの医療従事者にもまだ認知度は低い研修制度であると思います。実際に病棟で特定行為実践を行う際は、医師への説明はまだまだ必要であり、自らの活動を通じてこの研修制度の啓蒙活動を行っていく必要があると実感しています。今後は患者さんにとって生活の場となる病棟で一番そばにいる看護師ならではの視点と、特定行為研修で学んだ知識や技術を活かして、より積極的に治療に関わっていきたいと思っています。



薬剤師のつぶやき…

日焼けと何が違う？

光線過敏症とは

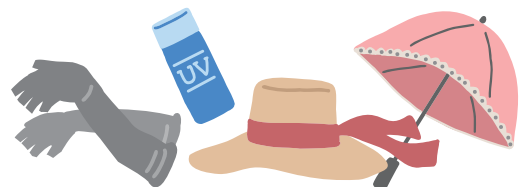
9月に入っても暑い日が続きますね。気温だけでなく紫外線にもまだまだ注意が必要です。普段みなさんが使っている薬の中には、使用している最中や使用後に強い紫外線に当たると皮膚症状が出てしまうものがあることはご存知ですか？『光線過敏症（こうせんかびんしょう）』といって、日焼けのように皮膚が赤くなってしまう、かゆみを伴うぶつぶつができてしまうなどといった症状が見られます。

このような症状の原因となる薬で代表的なものは痛み止めのケトプロフェンを含有する湿布薬や塗り薬、ニューキノロン系と呼ばれる抗菌薬の一部、サイアザイド系と呼ばれる利尿薬の一部などです。



■症状が出てしまったら…

原因となる薬をやめることが大切です。心当たりがある際には処方医や皮膚科にご相談ください。日焼け止めを使うことや日傘や帽子、アームカバーなど直射日光を避けることで予防できる場合があります。



栄養アラカルト

当院では、入院生活の中でも季節や新鮮さを感じられるよう、行事食、郷土食、スイーツを毎月提供しており、患者さんにお喜びいただいています。今回は、「七夕献立」、大分県の郷土料理「鶏めし」、「ほうれんそうプリン」をご紹介します。



七夕献立 (7月7日)
 ●七夕そうめん ●天ぷらの盛り合わせ
 ●天の川ゼリー ●胡瓜とカニの酢の物



鶏めし (大分県の郷土料理)
 ●冬瓜のきめ煮 ●フルーツポンチ
 ●キャベツサラダ



ほうれんそうプリン

“食欲の秋”を美味しくヘルシーに

まだまだ残暑が厳しいですが、暦の上では秋となりました。美味しい食材が多く登場しますが、食べ過ぎや肥満は避けたいですね。



- 対策 1** 芋類や栗は糖質が多く要注意。混ぜご飯で主食として摂れば、総量を抑えられます。
- 対策 2** 旬の野菜やキノコを活用しましょう。低カロリーで豊富に含まれる食物繊維には血糖や血中脂質の上昇を抑え、腸内環境を整える働きもあります。キノコや筍などと炊き込みご飯にして、かさ増しすることもオススメです。
- 対策 3** サンマや鮭なども旬です。代謝アップや筋肉量維持に必要な蛋白質を多く含みます。
- 対策 4** 体を動かすことも大切です。“運動の秋”も楽しみましょう。

まとめて炊くだけカンタン炊き込み御飯



さつまいも御飯 (5食分)
 1食あたり270kcal(推定)

米・・・・・・・・・・・・ 2合
 水・・・・・・・・ 2合炊飯時の規定量
 さつまいも・・・・・・ 1本
 白だし・・・・・・・・ 90ml
 (盛り付け時に適宜 黒ごま)



キノコの炊き込み御飯 (5食分)
 1食あたり280kcal(推定)

米・・・・・・・・・・・・ 2合
 水・・・・・・・・ 2合炊飯時の規定量
 しめじ・・・・ 200g (2パック)
 舞茸・・・・ 100g (1パック)
 油揚げ・・・・ 1枚
 めんつゆ (2倍濃縮)・・・ 100ml
 (盛り付け時に適宜 三つ葉)

近隣施設紹介



とよだ医院

彩の国東大宮メディカルセンターの前身の東大宮総合病院に14年余り勤務し、東大宮で2000年に開業して早23年になります。病院時代に診させていただいた患者様を最後まで看取るつもりで開業して、この間、殆どの患者様を在宅で看取る事ができ、色々のご協力いただいたメディカルセンターの先生方には感謝しております。生活習慣病を中心に診療しており、検査結果等の説明や疾病に関する説明は、なるべく分かりやすくするように心がけています。スタッフはベテランの明るい女性ばかりです。少しでも患者様に寄り添える医療従事者でありたいというスタッフです。

医療機関名	とよだ医院
住所	埼玉県さいたま市見沼区東大宮6-36-1 MGプラザ1階
電話番号	048-682-7670
院長	豊田 由美
外来時間	【午前】月曜日～土曜日 9:00～12:30 【午後】月曜日・火曜日・木曜日・金曜日 14:30～18:30 土曜日 13:00～15:00(但し、第3土曜日は午後休診)
駐車場	5台完備



日曜検診「マンモサンデー」

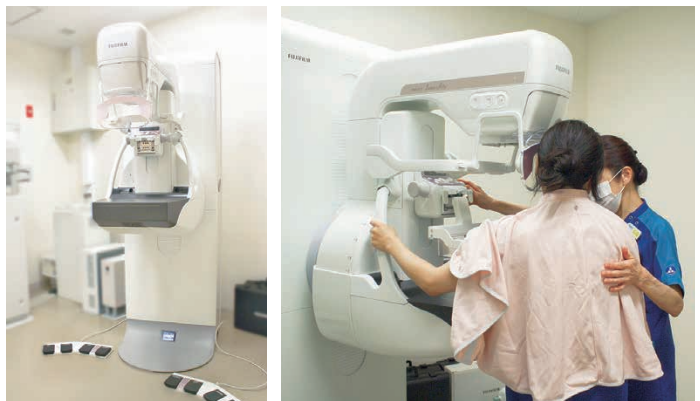
当院実施日：2023年10月15日 日曜日

「ジャパン・マンモグラフィー・サンデー（J.M.Sプログラム）」は2009年より開始した子育て・介護・仕事・家事などで多忙な平日を過ごす女性のために「毎年10月第3日曜日に全国どこでもマンモグラフィー検査を受診できる環境づくり」を目指し、全国の医療機関と認定NPO法人J.POSH（日本乳がんピンクリボン運動）が協力して取り組んでいる活動です。

当院もJ.M.S賛同医療施設としてマンモグラフィー検査と乳腺超音波検査のセットで受診が可能です。また、当院は3Dマンモグラフィー検査も導入しており、従来の2Dマンモグラフィー検査よりもたくさんの断面画像を撮影することでより精度の高い検査が可能となります。スタッフすべて女性による検査を行っておりますので安心して受診することが出来ます。

乳がんは早期発見・早期治療すれば「ほとんどが治る病気」です。今まで乳がん検診に行ったことがない方、最近忙しくて受診できていない方、コロナ禍で受診できなかった方等、日曜日に受診出来るこの機会に「乳がん検診」を受けてみませんか。

J.M.Sプログラム以外にも当院ではさまざまな健康診断のご予約を承っております。詳しくは当院予防医療センターホームページをご覧ください。



診療実績

(2023年4月～2023年7月平均)

入院稼働率	86.2%	救急搬送件数	445件/月
1日平均入院患者数	248.3人	手術件数	277件/月
平均在院日数	13.8日	紹介患者数	806件/月
1日平均外来患者数	525.2人		

病院理念

私たちはホスピタリティの精神で患者さまと感動を共有し、高度の急性期医療で地域に貢献します。



基本方針

1. 職員ひとりひとりの成長を支援する
2. 医療の質を高める努力を継続する
3. すべての顧客（ステークホルダー）の満足度を高める
4. 健全な経営を行う

交通案内図



JR	宇都宮線・湘南新宿ライン・上野東京ライン 「土呂駅」東口より 徒歩約11分
東武アーバンパークライン	「大宮公園駅」より 徒歩約9分
自動車	首都高速埼玉新都心線「さいたま見沼」ICより 約18分 東北自動車道「岩槻」ICより 約21分

